

ご 注 意

地盤の許容応力度及び基礎杭の許容支持力は、国土交通大臣の定める方法によって地盤調査を行い、その結果に基づき定めなければならないと規定されています。(建築基準法施行令第93条)

地盤構成並びに各地層の性状は、場所ごとに千差万別であることから、敷地（状況においてはその周辺も含めて）の地盤調査によって地盤構成等を的確に把握し、その結果に基づいて建物をどの地層に支持させるかを決定する必要があります。

したがって、本資料は計画段階における参考資料としてご活用ください。

栃木県土木部建築課

ボ - リ シ グ 案 内 図

(図 - 1)



NI



S = 1:50000

ボーリング柱状図

調査名 聾学校普通特別教室棟新築工事に伴う地質調査 孔番 No. 1 地盤高 m

調査場所 宇都宮市若草2-3 (基準面)

地 形 摘 要

調査期間 昭和60年12月 日 ~ 12月 日

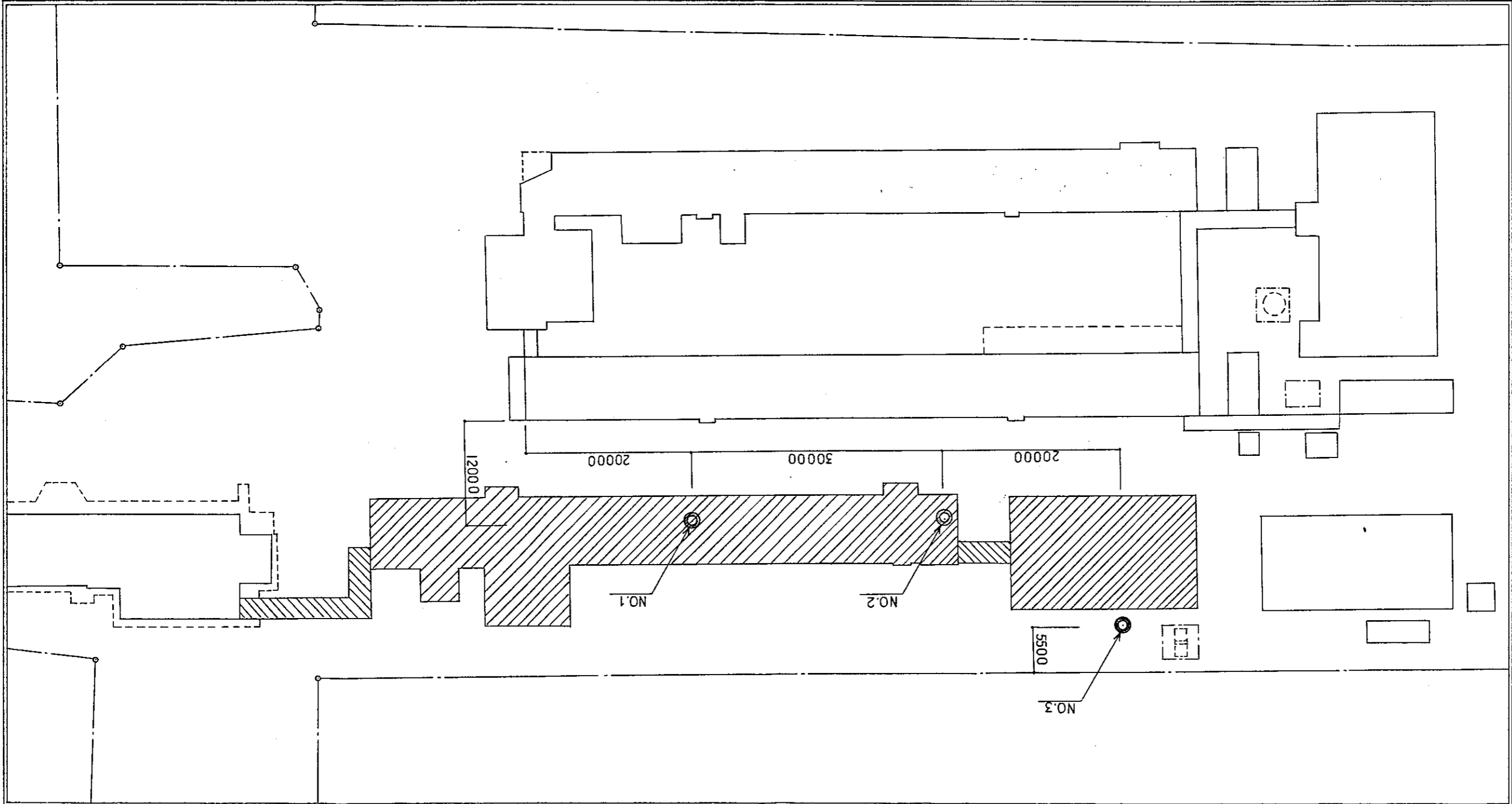
地下(孔内)水位 G.L.-4.40M

調査担当者

標高 地下水位 (m)	深度 (m)	層厚 (m)	土質記号	土質	土性		備考	(註)試料			原位置 試験深度 (m)	標準貫入試験						
					色調	相対密度		番号	記号	採取深度 (m)		打撃回数						
												10	20	30	40	50	60	70
	0.70	0.70	X	表土	黒褐		丁植物混入				1.15	2						
			/		黄		幾分粘土質を呈す	1	1/15	1.15	1.45	2						
			/		褐		2m附近 暗褐色を呈す 幾分砂質が混入	2	1/30	2.15	2.45	1						
	2.80	2.10	VV	□-△	黄褐		粒径不均一	3	1/15	3.15	3.45	2						
	3.50	0.70	VV	礫石粒	黄褐		幾分粘性を呈す	4	1/30	4.15	4.45	2						
	4.45	0.95	/	□-△	褐		4.80~4.95mで砂層 を挟み、又色調は暗灰 褐色、10~50%内外の ものが多い	5	16-28	5.15	5.38	50	23					
			/		暗		6.5m附近は30~70% 内外の礫が多い	6	26-24	6.15	6.31	50	16					
			/		褐		7.5m附近より砂多量 所以礫混入 礫径20~30%内外の もの多い	7	19-31	7.15	7.35	50	20					
			/		灰		8.6mで径200%の玉石 を含む	8	11-13-16	8.15	8.45	40						
			/		色		9m附近より濃茶褐色 に変わる	9	15-35	9.15	9.32	50	17					
			/		砂		9~10mは径100~150% の玉石が主体、又色調 は暗褐色	10	9-10-10	10.15	10.45	29						
	10.50	6.05	/	砂	砂		10.15mより砂分が(礫径 20%内外のものが多い)	11	7-5-5	11.15	11.45	17						
			/	砂	砂		所々に礫径10~20%の 小礫が介在 含水あり	12	13-15-15	12.15	12.45	43						
	11.55	1.05	/	砂	砂		含水あり 礫径20~30%内外の もの多い	13	20-30	13.15	13.32	50	17					
	13.17	1.62	/	砂	砂													

(註) ○ 標本試料 ■ 乱した試料 □ 取れない試料

ホーリソク位置図 (図-2)



申請建築物
既存建築物

S=1:500

